

全国ユース 環境ネットワーク

「全国ユース環境活動発表大会」は、
今年も地方大会と全国大会を
開催します。
詳しくは、本誌をご覧ください。



2019年8月2日 福岡市にて「九州地方ユースSDGsフォーラム」開催
参加者みなさんで記念撮影

ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構
理事長 小辻 智之

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力賜り、御礼申し上げます。

現在、地球上では二酸化炭素等による温暖化や熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しており、生活や社会活動に対して多大な影響を及ぼしていることを日々の情報等からも実感する状況になってきました。

こうした状況の中、温暖化に対する国際的な取組として、気候変動枠組条約第21回締約国会議で採択され2016年に発効したパリ協定に基づいて世界各国が温室効果ガスの排出目標を設定することとなり、我が国も2030年度に2013年度比で26.0%の削減、さらに長期的な目標として2050年度に80%の削減を掲げています。そして、今年の6月にG20サミットが大阪市で開かれましたが、パリ協定からの離脱が決定した米国も含め各国が「環境と成長の好循環」というコンセプトについて合意しました。

また、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において採択された持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年に向けた持続可能な開発目標として17の目標と169のターゲットを掲げており、気候変動や持続可能な消費や生産、さらには貧困や飢餓など様々な社会課題への対策を進め、開発途上国だけでなく先進国も含め世界全体で持続可能な社会の実現を目指すこととなっております。

このような国際的な動向や複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、我が国では2018年4月に「第五次環境基本計画」を閣議決定し、SDGsの考え方も活用した「地域循環共生圏」が提唱されました。これは、各地で地域資源を最大限活用しながら、自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことで地域の活力が最大限に発揮されることを目指すものです。

これらの様々な取組を推進していく上では、立場やセクターを超えて参加し連携し合い、また、長期的な視点を持って取り組むことが大切で、とりわけ次世代の担い手である「ユース世代」のみなさんの役割がますます重要になっています。

独立行政法人環境再生保全機構では、環境省とともに「全国ユース環境ネットワーク促進事業」を2015年度から実施しており、その一環として、環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連サステナビリティ高等研究所の主催で、「全国ユース環境活動発表大会」を開催しています。昨年度は、地域ごとに環境保全への志を同じくする高校生が集まり活動を発表し合う地方大会を全国8か所で初めて開催しました。活動内容を披露し合う機会が増え、同世代が行う活動から気づきや学びを得る交流の場となるよう期待するものです。

今、高校生である皆さんは、2030年には社会の第一線で活躍する世代になっています。ユースの皆さん自らの行動が地球規模の目標達成と密接に結びついていることをより実感いただけるものと考えております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

開催
決定!

第5回 全国ユース環境活動発表大会

全国大会 2020年2月8日(土)~9日(日) 東京都内で開催!
地方大会 2019年11月~12月 全国8か所で開催!
札幌 仙台 東京 名古屋 大阪 広島 高松 福岡

「全国ユース環境活動発表大会」とは・・・

出会いの場

環境活動に取り組む高校生が一堂に集まります。

発表の場

想像力を働かせて行っている自らの環境活動を発表します。

交流の場

他校の活動を知り、意見交換をし、互いに研鑽し合います。

今年も全国8か所で「地方大会」を開催します!

高校生の皆さんが実践している環境活動を、各地域で同じように環境活動に取り組む仲間たちの前で発表し、つながる場です。ぜひ地方大会に参加してください!
各地方大会で選抜された2団体には、全国大会に出場していただきます!
応募の方法→本誌P3~4をご覧ください。 地方大会の詳細→本誌P5~6をご覧ください。

■昨年度の第4回大会の様子をご紹介します。

◆地方大会を全国8か所で開催!

第3回大会までは全国大会のみの開催でしたが、発表の機会と交流の場をより多く創出するため、全国8か所で地方大会を開催しました。書類選考を通過した合計95団体が各地方大会へ出場し、地域の特徴を活かしたさまざまな環境活動の取り組みを発表。またワークショップを通して交流を深めるとともに、SDGsについて学びました。



地方大会での発表の様子

地方大会参加者の声(アンケートより)

<高校生の感想>

高校生にもできることが、SDGsにつながっていることを実感できて良かったです。他の学校が何を目標としてどんな活動をしているのか、知ることができて、貴重な体験になりました。

<先生の感想>

分野が異なるものの、熱心に環境に対して活動する高校生・先生がおられ、心強く感じました。また通じる活動をしている学校もあり、今後連携していきたいです。



全国大会でのグループワーク

◆全国大会は16団体が出場!

各地方大会で選抜された16団体が、2月に東京都の国連大学で開催された全国大会に出場しました。1日目には研修、セミナー、グループワークを行い、普段は出会うことがない全国の高校生同士が交流を深めました。2日目には発表大会と表彰式を開催。地方大会の発表からさらに練り上げ、創意工夫を凝らした発表が行われました。



全国大会での表彰

みなさんが日頃から実践している環境活動、ぜひ発表してください！

「全国ユース環境活動発表大会」は、日本全国で環境活動を実践している高校生が発表し合い、そしてつながる場です。みなさまからのご応募、お待ちしております！

全国ユース環境活動発表大会

- <主催> 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)
- <後援> 読売新聞東京本社
- <協力> 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
ESD活動支援センター
- <協賛> キリンホールディングス株式会社
協栄産業株式会社
SGホールディングス株式会社
株式会社タニタ



第4回大会 記念写真

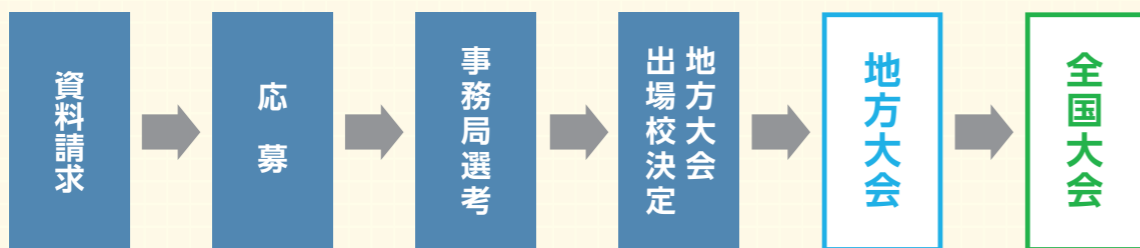
地方大会

今年も11月～12月に全国8か所で地方大会を開催し、発表・交流・表彰を行います。

各地方大会から選抜された2団体、合計16団体が全国大会へ出場します。
※地方大会の日程等、詳しいご案内は本誌のP5～6をご覧ください

- | | | | |
|-----------|----------|----------|-------------|
| 北海道大会(札幌) | 東北大会(仙台) | 関東大会(東京) | 中部大会(名古屋) |
| 近畿大会(大阪) | 中国大会(広島) | 四国大会(高松) | 九州・沖縄大会(福岡) |

<応募から地方大会、全国大会までの流れ>



地方大会での発表の様子(例:第4回大会)



地方大会での交流の様子(例:第4回大会)



全国大会での表彰の様子(例:第4回大会)

全国大会

2020年2月8日(土)～9日(日)に
東京都内の会場にて開催決定！

大会概要

- 名称 第5回全国ユース環境活動発表大会 全国大会
- 日程 2020年2月8日(土)～9日(日)
(1日目) 環境フォーラム
(2日目) 環境活動発表大会、表彰式
- 会場 国連大学レセプションホール
(東京都渋谷区神宮前5丁目53-70)
ベルサール八重洲(東京都中央区八重洲1-3-7)
- 出場団体 「地方大会」にて選出された16団体
- 表彰(予定)
○環境大臣賞 ○環境再生保全機構理事長賞
○国連大学サステナビリティ高等研究所所長賞
○読売新聞社賞 ○特別賞(高校生選考賞)
○特別賞(先生選考賞)



国連大学外観(1日目)

ベルサール八重洲 地図(2日目)

応募要項

大会に出場するための2ステップ！

1 資料請求

まずは資料を請求してください！ 詳しい資料をお送りします。
本誌をお送りした際の送付状裏面の「大会資料請求用紙」にご記入いただき、メールかFAXにてお送りください。
事務局より「応募のご案内」「応募用紙」等の資料をお送りいたします。

資料請求先 Email: youth@erca.go.jp FAX: 044-520-2192

2 応募

資料が届いたら、必要事項を応募書類に記入し、必要資料を添えて事務局宛にお送りください。

応募締切

2019年 10月15日(火) 18:00 必着

応募締切後、書類選考で地方大会出場団体の選考を実施し、後日事務局より結果をお送りいたします。
地方大会には各地方12～13団体、全国大会には各地方2団体、合計16団体が出場します。

応募資格

環境活動を実践する高校生等の団体
※全国の高等学校、高等専門学校(高等学年)、中等教育学校(4～6年生)の部活動、委員会、有志団体等。環境活動の実践者が高校生であれば応募可能。高校や所属団体を通じて応募してください(高校以外の環境活動団体や地域団体も可能)

募集内容

地球温暖化対策、低炭素、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など「環境」に関わる活動であって「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標達成にも資する活動

審査基準

- 自主性
- 着眼点
- 協働
- 改善度
- 発信力

交通費

地方大会、全国大会共に、各団体引率者1名、高校生5名の往復交通費を規程に基づいて支給させていただきます。

同じ地方で環境を守る活動をしている仲間たちと交流する機会です！
交流SDGsワークショップも実施します。

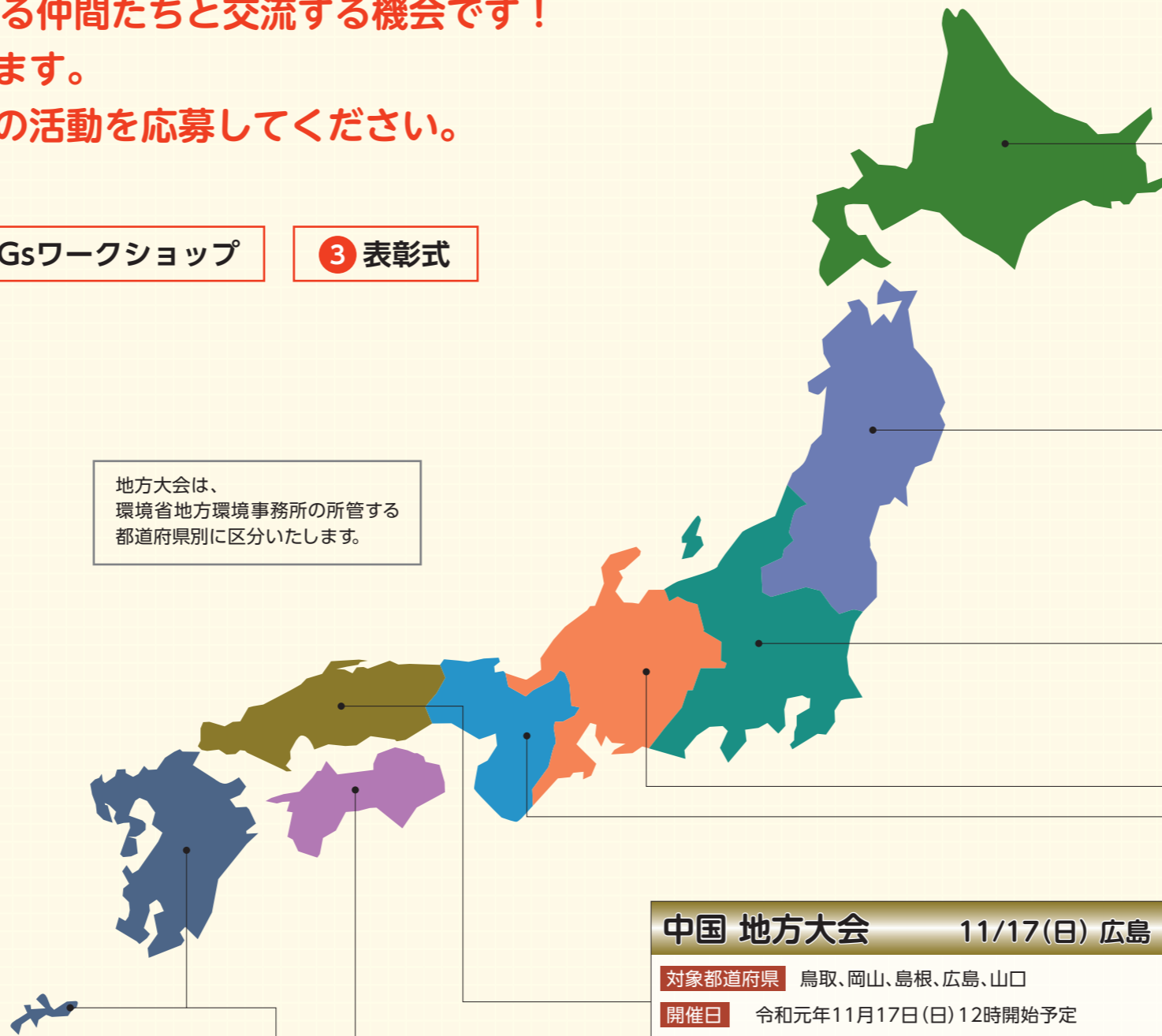
P4の応募要項をご覧の上、みなさんの活動を応募してください。

地方大会のプログラム

- ① 高校生の環境活動発表
- ② 交流SDGsワークショップ
- ③ 表彰式

地方大会日程

11/10	北海道大会 札幌 TKP札幌駅カンファレンスセンター	
11/17	東北大会 仙台 TKPガーデンシティ仙台	
12/8	中部大会 名古屋 TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口	
12/8	九州・沖縄大会 福岡 TKPガーデンシティ PREMIUM博多駅前	
12/15	関東大会 東京 TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター	
12/15	近畿大会 大阪 TKPガーデンシティ東梅田	
12/22	四国大会 高松 サンポートホール高松	



地方大会は、
環境省地方環境事務所の所管する
都道府県別に区分いたします。

北海道 地方大会 11/10(日) 札幌

対象都道府県 北海道

開催日 令和元年11月10日(日) 12時開始予定

会場 TKP札幌駅カンファレンスセンター
(北海道札幌市北区)

東北 地方大会 11/17(日) 仙台

対象都道府県 青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

開催日 令和元年11月17日(日) 12時開始予定

会場 TKPガーデンシティ仙台
(宮城県仙台市青葉区)

関東 地方大会 12/15(日) 東京

対象都道府県 茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、神奈川、新潟、山梨、静岡

開催日 令和元年12月15日(日) 12時開始予定

会場 TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター
(東京都中央区)

中部 地方大会 12/8(日) 名古屋

対象都道府県 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重

開催日 令和元年12月8日(日) 12時開始予定

会場 TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口
(愛知県名古屋市中村区)

近畿 地方大会 12/15(日) 大阪

対象都道府県 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

開催日 令和元年12月15日(日) 12時開始予定

会場 TKPガーデンシティ東梅田
(大阪府大阪市北区)

中国 地方大会 11/17(日) 広島

対象都道府県 鳥取、岡山、島根、広島、山口

開催日 令和元年11月17日(日) 12時開始予定

会場 TKPガーデンシティ広島駅前大橋
(広島県広島市南区)

四国 地方大会 12/22(日) 高松

対象都道府県 香川、徳島、愛媛、高知

開催日 令和元年12月22日(日) 12時開始予定

会場 サンポートホール高松
(香川県高松市)

九州・沖縄 地方大会 12/8(日) 福岡

対象都道府県 福岡、大分、宮崎、佐賀、熊本、長崎、鹿児島、沖縄

開催日 令和元年12月8日(日) 12時開始予定

会場 TKPガーデンシティ PREMIUM博多駅前
(福岡県福岡市博多区)

これまで「全国ユース環境活動発表大会」の全国大会が開催されてきた東京・南青山にある国連大学。どのような活動をしているかご存じですか？
今回は、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) で日々熱心に研究に励んでいる研究員の活動をご紹介します。

国連大学 (UNU) とは？

国連大学は、グローバルなシンクタンクであり、大学院教育・能力開発を行う学術機関です。世界12か国に14の研究所があり、日本に本部を置いています。国連大学の使命は、人類の生存、開発、福祉といった緊急性の高い地球規模課題を、共同研究や教育を通して解決へと導くことです。



国連大学 Photo:UNU

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) とは？

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) は、東京に拠点を置く国連大学の研究・教育機関のひとつです。研究所の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という3つの大きなテーマがあります。またUNU-IASは、国内外の主要大学との緊密な協力のもと、修士・博士課程、ポスドクフェロシップ、短期コースを実施しています。



国連大学 サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) JSPS - UNU ポスドクフェロレティシア・ドス・ムチャンゴス

プロフィール：中国の重慶大学で修士（環境工学）、大阪大学で博士（環境工学）を取得後、2017年からJSPS（日本学術振興会）の外国人特別研究員として UNU-IASで研究活動に従事している。国籍はモザンビーク

私はUNU-IASで「廃棄物の管理」について「持続可能な開発のための教育 (ESD)」と「持続可能な開発のためのガバナンス (GSD)」という2つのプロジェクトに所属して研究しています。中でも、ごみの収集といった廃棄物に関する教育やキャンペーンを行う際、ジェンダーや地域社会の特性をどう活かすかが大きな研究課題です。
私が故郷モザンビークで大学生だった頃、路上に放置されたゴミ問題が国内で注目を集めていました。収集されたゴミの行方について調べるうちに、大規模なゴミ集積場がモザンビークにあることを知って衝撃を受けました。実は身近にあったそのゴミ集積場の規模の大きさに驚くとともに、そのすぐそばで生活している住民への影響は深刻なものではないかと考え始めました。これが研究の道に進むきっかけです。
ごみ問題は開発途上国、先進国どちらにおいても重要な課題です。消費のあり方の改善、持続可能なデザインの推進、廃棄物の適切な管理、廃棄物削減など課題は山積みです。だからこそ効果的な環境マネジメント、資源の活用、廃棄物管理に関する研究を進め、課題解決に貢献したいと強く願っています。

持続可能な社会の実現へ 東京2020大会に寄せる期待
日本が東京2020大会に向けて、持続可能性に配慮した運営計画を策定している点にも注目しています。この運営計画は、持続可能な資材の調達や製造といったハード面は充実していますが、ステークホルダー間のコミュニケーションや参加の促進、個人や組織の意識改革といったソフト面の要素が欠けているように感じます。政府、企業、市民社会といった関係者全員の理解と合意、参加が運営計画を成功へと導く鍵となります。計画に向けて、それぞれが自分の役割を的確に把握して能力を発揮するためにも、コミュニケーションをスムーズに行い、意識と理解向上を促す効果的なプラットフォームの確立が必要だと思います。
私にとって「持続可能な社会」とは、個々人が他者からの支援がなくても自立、自活できる社会です。「資源を過剰に消費する社会」と「資源不足に苦しむ社会」という構図から脱し、より平等で自然環境との調和のとれた社会が実現できたらと願っています。

日本の廃棄物処理システムから学ぶこと

日本は環境工学という分野でも、廃棄物処理システムにおいても実績のある国なので、直接学びたいと思い日本にきました。モザンビークでは、まだ廃棄物処理システムが確立されていないので、日本の生ごみの埋め立てやゴミの収集、処理技術、最終処分の仕方など学ぶことが多くあります。
初めて日本に来て驚いたのは、ゴミ収集の仕方です。ゴミの出し方が細分化且つ組織化されていて素晴らしいと感じます。一方で、どんな小さな物も個別包装するなど、プラスチックトレイやビニール袋などによる過剰包装には驚きました。
これまで日本で研究を進める中で一番印象的だったのは、ごみ焼却施設から出る処分灰で作られた埋立地を実際に歩いたことです。地域や環境に配慮した廃棄物処理のあり方とその可能性について深く考えるきっかけとなりました。



廃棄物処理の現場視察 (米国テキサス州)

高校生環境研修 ～企業の環境活動を学ぶ～

よろこびがつなぐ世界へ



キリンホールディングス株式会社

岩手県立久慈東高等学校 岩手県立遠野緑峰高等学校



遠野パドロンハウス農園にて
岩手県立久慈東高等学校と岩手県立遠野緑峰高等学校のみなさん
(ユース事務局スタッフ2名も一緒に)

遠野産ホップとまちづくり

「ホップの里」から「ビールの里」へ遠野の未来につながるまちづくり

「ホップの里」から「ビールの里」へ、50年後の遠野の未来につながるまちづくりのために、遠野市とキリンが進める「ビールの里構想」。2019年7月31日、久慈東高校と遠野緑峰高校のみなさんが現地のホップ農園などを視察し、日本産ホップの持続的生産体制の確立を通じて、地域活性化を目指す取組みについて学んできました。

「ホップの里」から「ビールの里」へ

ビールづくりに欠かせない原料のひとつである「ホップ」。岩手県遠野市は、日本一のホップ栽培面積を誇っています。しかし栽培農家の減少により、現在の遠野市のホップ生産量はピーク時の約5分の1となっており、生産量増加に向けた取組みが求められています。そこでキリンホールディングス株式会社は、ビールの原料であり遠野市の大切な農作物「ホップ」を守るため、また、食とビールで遠野を元気にするために、農業活性化を通じた遠野のまちづくり「ビールの里構想」に取り組んでいます。

新たな農業法人「BEER EXPERIENCE株式会社」の設立

ホップ生産量の減少を食い止めるためには、生産者が減少しても収穫量が維持される、新たな生産体制の構築が不可欠です。そこで持続可能なホップの生産体制の確立により、「ビールの里」として地域活性化にも貢献するビジネスモデルを目指した新たな農業法人「BEER EXPERIENCE株式会社」を設立しました。

日本産ホップ生産拡大と栽培技術向上

BEER EXPERIENCE社では、新たな生産体制の1つとして、ホップ生産の機械化と大規模化を進めています。またホップの栽培技術向上のために、ドイツのホップ栽培技術を取り入れ、高い生産性と高品質を確保しています。2019年春には、4.9ha(東京ドーム約1個分)のドイツ式新ホップ畑が誕生しました。さらに、ホップ生産体制を維持するための人材を獲得するため、新規就農者を育成するプラットフォームが構築されています。

遠野パドロン生産の拡大と高収益化

ビールのおつまみに特化した新農業形態として、「遠野パドロン」が注目されています。パドロンはスペインではメジャーなおつまみ野菜であり、素揚げして塩で味付けするのが一般的です。高付加価値のあるビール関連食材として認知度の拡大を目指し、「ビールの里構想」を支える戦略として重要視されています。

遠野ビアツーリズム事業

BEER EXPERIENCE社では、ホップ畑やパドロンハウス農園、醸造所などを見学する「ビールの里・遠野満喫ビアツーリズム」や、ビールとおつまみのペアリング体験ができる「遠野ナイトビアホッピング」など、ビールの原料生産からクラフトビール醸造までを体感できるツーリズムを開催しています。さらに、遠野産ホップの収穫を祝う「遠野ホップ収穫祭」が行われるなど、ビールの里・遠野の認知度を高める取組みが行われています。



ビールづくりに使われるホップの実「毬花(まりばな)」



ホップ畑での研修



パドロン畑の見学

岩手県立久慈東高等学校 生物生産科目群

参加高校生
高橋結愛さん、橋場二葉さん
菱事美玲さん、小向莉緒奈さん
坂本千佳さん



感想

普段は馴染みの無いホップでしたが、実際に栽培する現場を見学できたので、貴重な経験になりました。大規模で機械化された生産方法は、農業の可能性を感じました。

また、遠野市はビールを用いたまちづくりをしていることを知り、ビアツーリズムや収穫祭に私たちも参加してみたいと思いました。

岩手県立遠野緑峰高等学校 生産技術科草花研究班

参加高校生
佐々木あゆなさん、照井幸汰さん
菊池虎太郎さん、菊池祐矢さん
菅田裕斗さん、高橋美羽さん
小森陽太さん、萩野白蘭さん
松田充弘さん



感想

今回の研修で、ホップには、私たちの知らない品種があるということが分かりました。生産の方法も、日本とドイツでは違いがあり、機械化が進んでいるドイツの方法は、農家の方々にとって効率的で快適であることを学びました。ホップの量は、品種によって長さや太さ、毬花(まりばな)にも違いがあることを知ることができたので、今後のホップ和紙作りでは蔓の太さや強度を調査し、今まで以上に高品質の和紙を作っていきたいと思いました。

九州地区の高校生・大学生が一堂に集合！ 「SDGs」、「地域循環共生圏」について学び、語り合いました！

主催 独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局
協力 環境省九州地方環境事務所 環境省九州地方環境パートナーシップオフィス
九州地方ESD活動支援センター 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協賛 キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社 SGホールディングス株式会社



2019年8月2日、九州地方で活発な環境活動やESD(持続可能な開発のための教育)活動を行う5県10高校、2大学の活動グループが集まり、「SDGs(持続可能な開発目標)」や「地域循環共生圏」について学び、交流しました。

基調講演では「地域循環共生圏の創造—日本発の脱炭素化・SDGs構想—」をテーマに、SDGsについて理解を深め、さらにSDGsを達成するための考え方として「地域循環共生圏」について知識を得ました。事例研修では「持続可能な栄養循環が私たちの生命を支える」のタイトルで、NPO法人循環生活研究所によるダンボールコンポストの普及活動等について学習。最後には、SDGsの目標と普段の自分たちの活動とを絡めた「ユースSDGsエール」を話し合い発表しました。



研修後、講師も加わって記念撮影

基調講演 岡野隆宏さん 環境省大臣官房 環境計画課 企画調整室長

地域資源で環境・社会・経済の課題を解決

環境省 環境計画課 企画調整室長の岡野 隆宏さんより、「良い社会、良い地球を作っていくとみんなが決めたのがSDGsの目標」と、SDGsの意味や採択された背景について丁寧に説明いただきました。生活を維持するのに必要な陸や水域の面積を表す「エコロジカル・フットプリント」の考えのもと、私たちが生きるためには地球1個分では足りないという話には、高校生も大学生も驚きの表情を浮かべました。なかでも世界的に大きな問題となっている気候変動やプラスチックごみの事例を通じて、SDGsの17の目標を達成するためにも「地下資源に頼った大量生産・大量消費・大量廃棄という社会のあり方そのものを変えなければいけない」と強調されました。また、現在環境省が進めている「地域循環共生圏」について学生たちに向けて分かりやすく解説。自分たちの地域にある資源をもう一度見つめ直し、その資源を上手に使うことで環境の課題を解決しながら、地域の社会を良くして経済的にも元気にすることが、すべてSDGsにつながっているとまとめました。国際的な目標であるSDGsが、自分たちの普段の生活や活動とも密接に関係していることを実感できた講演となりました。



岡野隆宏さん

事例研修 木村真知子さん NPO 法人循環生活研究所

「半径2km」の循環で世界は変わる

NPO法人循環生活研究所の木村 真知子さんより、活動事例を紹介いただきました。設立当初より、身の回りにある生ごみや落ち葉を土に戻すという土づくりを実践。家庭で簡単に堆肥を作ることができるダンボールコンポストを開発し、厄介者扱いされる生ごみや落ち葉や雑草、海藻のアオサなど、いろいろな有機物を堆肥化する活動などを行っています。また「物事を、自分ゴトで捉えることができる範囲」を半径2km圏内とし、さまざまな資源が循環するとても良い暮らし方ができると力説。現在取り組んでいる「ローカルフードサイクリング」についても、これまで家庭毎で行っていたコンポストを半径2km単位で集めて地域の菜園で堆肥に使い、そこで野菜を作って販売して食卓に並べるといった食循環だと説明し、福岡市内3か所での活動について解説。事例研修後の質疑応答の時間では、実際にコンポストをしている高校生と大学生からの質問や意見も飛び出し、学生にとってもさまざまな気づきが得られました。



木村真知子さん

ワークショップ 澤克彦さん 九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター
長峰秀幸さん 九州地方環境パートナーシップオフィス コーディネーター

ワークショップの前半では、一番関心の高いSDGsの目標を1つ選び、同じ目標を選んだ学生・先生も交じて選んだ目標について知っていることや気になること、問題意識などについて意見交換を行いました。後半は研修で得た知識やSDGsの目標について考えたことをもとに、自分たちがこれから活動していく上で一番大切にしたい課題やテーマ、活動ビジョンや取組みについて「ユースSDGsエール」としてまとめました。発表では、それぞれの問題意識をもとに力強くエールが投げかけられ、聞き入る学生たちの表情は、今後の活動への意欲を新たにしようというキラキラと光っていました。

また、ワークショップに並行して行われた教員同士の意見交換では、日ごろの活動づくりの工夫や、発表機会を活用したスキルアップ、生徒たちの自発的な取組みへの期待などについて情報交換・交流の場となりました。



先生も加わって意見交換

参加校

福岡工業大学附属城東高等学校 福岡県立伝習館高等学校 福岡県立糸島農業高等学校
福岡県立嘉穂総合高等学校 大分県立日田高等学校 熊本県立南陵高等学校
熊本県立天草拓心高等学校 マリン校舎 宮崎県立都城工業高等学校 鹿児島県立市来農芸高等学校
鹿児島県立薩南工業高等学校 福岡教育大学 長崎大学

ユースSDGs エール

九州地区 10高校&2大学

自分たちがこれから活動していく上で一番大切にしたい課題やテーマ、活動ビジョンや取組みについて「ユースSDGsエール」としてまとめました。

福岡工業大学附属城東高等学校

SDGs エール 「地域や家庭も一緒に行う環境活動」
「チーム城東」をモットーに元気に明るく学校生活を送っています。部活動も盛んで日頃の学習はもちろん挨拶や掃除なども、全力で取り組んでいます。環境活動にも力を入れており、生徒一丸となってゴミの分別や清掃ボランティア活動などに取り組んでいます。



福岡県立伝習館高等学校

SDGs エール 「柳川にウナギを呼び戻し、持続可能な形で最大限活用できる環境をつくる！」
柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにするためにシラスウナギの特別採捕と飼育、標識放流を地域を巻き込んで行っています。柳川掘割は江戸時代から人と水の関係が維持されている歴史資産です。私たちは絶滅危惧種と人の新しい繋がりを創りウナギ資源の持続的生産を目指しています。



福岡県立糸島農業高等学校

SDGs エール 「化学肥料を減らし、根こぶ病を抑制する!!」
農業を通じて命の大切さについて学んでいます。根こぶ病は、アブラナ科植物に発病する根こぶ病から農家さんを守りたいという思いから結成されたプロジェクトチームです。ボランティアで農家さんの土の根こぶ病発病診断や、啓発活動も行っています。



福岡県立嘉穂総合高等学校

SDGs エール 「生ごみ・落ち葉・雑草でのダンボールコンポストをしていきたい!」
全国初の学校で生徒がドローンの免許取得ができ、現在地元のJAと連携しドローンの農業分野の活用を行っています。ごみの分別に力を入れており、校内美化コンクールや地域清掃活動を行っています。更に地元桂川町活性化と被災地朝倉市の支援の取組みをしています。



大分県立日田高等学校

SDGs エール 「ジビエで日田を盛り上げる!」
「ミツガシワを絶滅の危機から救う!」
剛健・積極・明朗を校訓とし、文武ともに活躍をしています。平成23年よりSSH指定を受け、探求や国内外の研修を通じ、論理的思考力・コミュニケーション能力を伸ばし、「21世紀に活躍できる科学系人材の育成と地域創生のプログラム実践」に取り組んでいます。



熊本県立天草拓心高等学校 マリン校舎

SDGs エール 「カヤノミカニモリなど海洋生物を守る!」
熊本県「絶滅危惧IB類」(2014年)である海産巻貝カヤノミカニモリの保全を目指し、生活史の解明に平成27年度から取り組んできました。季節移動、食性、産卵時期についていくつかの知見を得て、現在は幼生の人工飼育に取り組んでいます。立看板の作製・掲示によりカヤノミカニモリの生息地保全に取り組んでいます。



鹿児島県立市来農芸高等学校

SDGs エール 「平飼養鶏の行動調査を行い、農家と連携してアニマルウェルフェアに基づいた飼養管理を広めたい!」
「家畜にも人にも優しい畜舎のあり方を考えて」をテーマにツバキを活用した臭気対策や茶葉を作製して採卵鶏に給餌して鶏卵の高品質化を目指して活動しています。現在は動物福祉(アニマルウェルフェア)について研究を深めています。



福岡教育大学

SDGs エール 「子供に現状を伝えて一緒に改善!」
「子どもたちに伝えられるように自ら実践!!」
「マイバッグ持参!」
「気づける子どもたちの育成を!」
「持続可能な社会を考えられる子どもたちを育てる教師になる!」
九州の教員養成拠点大学として、教育に関する専門的知識技能を獲得させ有為な教育者を養成しています。2018年度よりYESD(持続可能な開発のための教育)が授業科目として開設されました。学生は、持続可能な社会の創り手を育てるための教育の実践に向け日々努力をしています。



長崎大学

SDGs エール 「長崎の海岸を日本一きれいに!」
ながさき海援隊は海岸ゴミ問題解決を目的とし活動している団体です。主に長崎市内の海岸清掃を行うとともに、国際海岸クリーンアップ(IICC)という国際的に統一された方法を用いて漂着物の調査も行っています。そこで得られたデータをもとに、公民館や街頭で子どもたちや市民の皆さんに対する啓発活動も行っています。



東北地区 高校生SDGsセミナー 2019 ～ SDGsと環境で東北を元気にする地域循環共生圏 ～

主催 全国ユース環境ネットワーク事務局
共催 環境甲子園 (NPO法人環境会議所東北)
協力 環境省 東北環境パートナーシップオフィス (EPO東北)
東北地方ESD活動支援センター
協賛 キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社 SGホールディングス株式会社

2019年8月6日、地域の課題探求に取組む東北地方6県12校の高校生が仙台に集まり、持続可能な地域循環共生社会形成に向けた研修が行なわれました。2030年に向けたSDGs採択に至るまでの世界の動き、セヴァン・カリス=スズキ/リオサミットのスピーチが紹介されセミナーが始まりました。循環型社会形成に積極的に取組む企業から東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町における具体的事例が紹介され、その後行ったワークショップでは「私たちは変わる！そして私たちが変える！」を念頭に2ステップで意見を出し合い、SDGs達成に向けチェンジメーカーになることを宣言しました。東北地区 高校生SDGsセミナーの詳細を報告します。



セミナー記念撮影

基調講演 藤田和平さん アミタ株式会社

自然資本 × 人間関係資本で実現する「持続可能な社会」

資源・エネルギーが循環するサプライチェーンの構築に向けて、対企業、対地域でそれぞれのソリューションを最適に組合せた事業を展開しているアミタ株式会社。現代社会が抱える急速な人口減少と少子高齢化という負のスパイラルからの脱却に向け、地域全体を巻き込み展開している取組みを「南三陸町における新しい社会システムづくりへの挑戦」と題して紹介しました。

この取組みは、家庭から排出されるゴミの約40%に当たる生ごみと浄化槽などから排出される汚泥をバイオガス施設で再資源化し地域に還元するものです。産業と技術革新 (SDGs-9)、廃棄物をバイオマスとして活用する (SDGs-7) への貢献！という「物」を中心とした形に加えて興味深かったのは、住民総出で生ごみ減量に取組んでいること、生み出されたい肥を自分たちで利用し生産・販売するシステムの中に企業だけでなく地域が関わり存在していることでした。これは「つくる責任つかう責任」(SDGs-12)の地域による実践です。このシステムは動きがいと経済成長 (SDGs-8) や豊かな大地を守る (SDGs-15) ことにも繋がっていきます。

養殖中心となってきた漁業者も持続可能な森林経営を目指す林業者も地域の未来を見据えそれぞれASC認証 (SDGs-14)、FSC認証 (SDGs-15) を取得し、ひとつひとつが繋がって南三陸町のスパイラルは負から正に変わりつつあります。そこにはまさに住み続けられる街 (SDGs-11) が見えてきました。廃棄物が課題となって負のスパイラルに陥っているパラオでのシステム作りも始まっているそうです。様々な地域課題を大きな流れに取込んで解決していく姿が、集まった高校生たちに大きな気づきを与えた発表となりました。



藤田和平さん



講演中の高校生連の様子



海藤節生さん



ワークショップの様子

ワークショップ 海藤節生さん NPO法人 環境会議所東北 主任研究員 (ファシリテーター) NPO法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長

私達は変わる！そして私達で変える！ 「地域循環共生圏」

体験したことのない社会や未来のことを自分事としてとらえること。課題の背景や解決策を探るためには創造力を発揮して物事を複眼的にみるのが大切だというお話からSDGsにつながる4つの柱 (自発性、無償性、利他性、創造性) について話があり、セミナーのテーマである「SDGsと環境で東北を元気にする地域循環共生圏」を目指し東北6県で活動する高校生がシャッフルして6つのグループを作りそれぞれのテーブルで知恵を出し合いました。

- ①自分たちの活動は「どんな課題に対してどのようなアプローチをしているのか？」
 - ②その活動の陰には「どんな背景が存在するのか？」
- 各高校の取組みに対して二つの視点で意見を出し合うワークショップです。

高校生SDGs宣言

ワークショップでは、セミナーのテーマである「SDGsと環境で東北を元気にする地域循環共生圏」達成に向けて「自分たちが課題として捉えていること、その背景、課題解決に向けたアクション」という切り口で6つのグループに分かれ活動を振り返りました。他校生徒から出された意見を自分のグループに持ち帰りまとめられた宣言を紹介します。

**私たちは変わる！そして私達で変える！
SDGs達成に向け、私たちは目標のチェンジメーカーとなることを宣言します。**

青森県立八戸北高等学校

根井和佳南さん/土佐美月さん/蛭田ひかりさん

宣言 2030年の八戸市の環境破壊や人口流出を解決するために、現状を高校生が学び、地域の中心となって活躍できる人になります！
説明 八戸市及びその近郊における環境保全の取組について調査、見学、発表を行う中で、持続可能な社会の実現と自分の関わりについて考えます。(SDGs-16,17)



青森県立むつ工業高等学校 地中熱融雪研究班

石田圭人さん/菊池七星さん/松橋弥夕さん

宣言 豪雪地帯に暮らす人々の除排雪による重労働を解決するために、地中熱からの熱効率を改善し地元を住みやすい場所に変えます！
説明 地中からの熱をより効率良く使うことのできる可能性があるのもっと研究を深めていき、夏も冬も過ごしやすい地元としていきたいです！(SDGs-7,11)



岩手県立釜石高等学校 SS探究I

藤原南奈さん/今出義隆さん/藤原礼奈さん

宣言 釜石の空き家増加を解決するために、空き家を「民泊」としての活用を提案する！
説明 釜石は空き家が多いため、それを活用することによって地域の活性化や経済成長も図れると思うので、空き家を民泊として活用することを提案します！(SDGs-11,12)



岩手県立花巻農業高等学校 ソーセージ班

伊藤里佳子さん/久慈詩音さん/神久保蓮さん

宣言 岩手県の耕作放棄地にいる羊を食べてもらうためにラム肉に対するイメージを変える！
説明 行政が連携する。ラム肉に対するイメージを聞きそれを改善していく。耕作放棄地を有効活用し、それを広げていき農家を助けると共に農家の生産意欲を向上していく。(SDGs-12,15)



秋田県立羽後高等学校

麻生駿一郎さん/小沼董さん/最上瞬さん

宣言 地域の人々にSDGsを伝える！
「地域学(羽後学)×SDGs」
説明 持続可能な町づくりのため地域の人を巻き込んでSDGs目標達成に向けて頑張ります。(SDGs-3,11)



秋田県立秋田北鷹高等学校

小坂藍海さん/小林碧さん/藤田夕雅さん

宣言 世界の地球温暖化を解決するために、途上国の文化に寄りそったプログラムを構築しより効果的なプログラムに変えます！
説明 環境NPOと連携し開発・実践している途上国(マレーシア)における気候変動対策に関する環境教育プログラムの改善に努めます。(SDGs-4,13)



宮城学院高等学校 特活自然科学班

菅原紗夕香さん/藤田怜那さん/松野詩穂さん

宣言 仙台の廃油の行き場を解決するために廃油から食糧を作ります！
説明 廃油を食べる酵母を探す。RYMを使用し酵母の簡易同定をする。食用廃油を用いた油の分解能力の確認を行う。液体培養を行い実用化をめざす。(SDGs-6,16)



宮城県富谷高等学校

蒲倉拓馬さん

宣言 富谷市の水素社会実験にむけて皆に広く関心を持ってもらえるように伝道師になります！
説明 水素のメリット・必要性は環境問題の対策から広く皆知られるようになったが、水素社会実現にむけてはまだ多くの課題がある。解決のために高校生の力で考えて取り組み、広く認知されるように努めていきたい。(SDGs-7)



山形県立鶴岡南高等学校

伊藤杏さん/伊藤日向子さん/菊地優衣乃さん

宣言 元気のなくなってきた鶴岡駅前を元気にするために、若者の鶴岡市に対する興味関心を変えます！
説明 「鶴お菓子祭り」を行うことで駅前若者を中心とする市民の皆さんが集まる機会を作り、駅前の活性化を図る取り組みを行います。(SDGs-11,17)



山形県立山形西高等学校 放課後実験倶楽部

近藤翼さん/江場海さん/大和佳奈さん

宣言 山形の若い世代の環境への関心の低さを解決するために小学校に在来生物について興味を持ってもらえるよう活動していきます！
説明 在来生物を用いることで自分たちの地域環境に関心・愛着を持たせる。環境保全につながる。子供たちとともに理解を深めることができる。SDG4:質の高い教育をみんなにつなげる。(SDGs-4,14)



福島県立葵高等学校 科学部

松木大知さん/五十嵐陽菜さん/小野佑月さん

宣言 私たちの暮らす地域の身近な生物を通して環境の問題を提起していきます！
説明 野生動物の人間活動による遺伝的攪乱の現状は、様々な地域で発生しています。私たちは絶滅危惧のメダカを用いて遺伝的な特性を維持することの大切さを訴えます。この研究を全国に広めていきます。(SDGs-14,15)



福島県立福島高等学校 有志団体

熊谷恭平さん/菊地裕斗さん

宣言 世界の多様性の尊重のために身近な人の意識を変えます！
説明 「Think Globally」を踏まえ、「世界」という広い視野を意識し、「Act Locally」を踏まえ、多様性について学び、「身近」な人に多様性の大切さを伝えていこうと考えました。(SDGs-5)



近畿地区 大学生SDGsセミナー

～近畿地区発 大学生が提案する『持続可能な社会づくり!』～

2019年8月に、近畿地区内で「持続可能な開発目標(SDGs)」の活動に、近畿地方で取り組む大学生達が大阪府大阪市に集まりました。

同じ持続可能な社会を作り出すことを目的としている仲間でも、活動内容も多様で、多様な活動を行なっている彼らがSDGsとどのようにつながっているか、また、近畿の大学生としてどのようにSDGsと関わるかを、社会人からの講演や学生同士での意見交換を踏まえ、理解を深めました。当日の様子をレポートします。

「SDGs」=持続可能な開発目標



基調講演

『2019 近畿地区 大学生 SDGs セミナー』

講師名：國松志帆さん パナソニック株式会社 アプライアンス社

当社は「産業人たるの本分に徹し 社会生活の改善と向上を図り 世界文化の進展に寄与せんことを期す」という経営理念を掲げており、世界のくらしと社会の発展に貢献するべく事業活動を展開しています。

また社会貢献活動として、無電化地域に対し太陽光エネルギーを使って明かりがつくランタンを提供する「ソーラーランタン10万台プロジェクト」を行いました。これにより、灯油ランプを使用する途上国の人々に対し、灯油の不使用による健康状態の改善、また夜間医療や夜間学習が可能になるなど、途上国の抱える課題解決に貢献してきました。また、滋賀県草津地点では未来の人材(材)育成として小中高校生を対象に社会科、理科、環境、SDGsなどに関する次世代育成を行う他、地域生態系保全に資するエコロジカルネットワークの構築や地域との防災連携などにも取り組んでいます。

事業活動においても「環境ビジョン2050」を掲げ、創・省・蓄エネ関連商品を展開する事で「使う」エネルギーよりも「創る」エネルギーが上回る事を目指しています。

私たちは、創業者の「社会や人々の為になる商品などを作ることで事業活動をしていますが、事業活動や産業の発展が、自然を破壊し、人間の幸せを取り去る様な事があってはならない」=「企業は社会の公器」という理念の下、世界中で今も未来も、よりよい暮らし、よりよい社会が続くよう事業活動や地域連携を展開していきます。学生の皆さんには自分の活動が地域から世界へ、そして未来につながっていく、ということを実感し、同じ活動をする仲間で見える化、共有し、共に活動を広げてほしいと思います。



國松志帆さん

事例紹介

『近畿地区 大学生 SDGs セミナー 事例紹介』

講師名：佐々木康之さん NPO 法人いけだエコスタッフ

NPO法人いけだエコスタッフのSDGsに関する取組を、「再生可能エネルギー」、「地球温暖化防止活動」「3R」「環境学習」といういけだエコスタッフの4つの柱の事業に沿って、事例を紹介しました。いけだエコミュージアムの取組や市民共同発電施設の建設、地域の野菜を販売する朝市や大学生と連携した環境学習プログラムの監修など、多岐にわたる活動において、多様なステークホルダーと連携をしながら、持続可能な社会の実現を目指しています。

最近では食の分野へのアプローチとして、「3R キッチン Vegan」の取組にも力を入れています。地産地消をコンセプトとした取組で、オーガニックな食材の提供だけでなく、フェイクミートなどの新しい食材の紹介・提供、フードマイレージやカーボンフットプリントへの配慮、レストランでの風力発電、太陽光発電の利用など、地球温暖化、持続可能な社会に配慮した取組を行っています。環境問題をとりまく世界の現状はめまぐるしく変化しておりますが、常に時代の潮流を読むことが大切です。そしてSDGs自体はあくまで指標であり、達成のための目標ではありません。SDGsの達成に向けて、いけだエコスタッフの事業において、リカレント教育やサードプレイスなどに取り組むことで、さらなる持続可能な社会への貢献を行いたいと思います。大学生のみなさんは今教育課程の最終段階だと思っておりますが、私自身含めてこのような「学びの場」を提供し続けることが、自分たちなりのSDGs達成の近道ではないかと考えています。



佐々木康之さん

当日の研修内容

研修には4団体14人の学生が参加し、概要研修や基調講演を経てSDGsへの学びを深めた後に、大学生同士による自身の活動とSDGsとの関連性についての意見交換を行いました。活発な意見交換の後で、当日の研修を踏まえた団体ごとのSDGs宣言を作成してもらいました。



当日研修に参加した大学生全員で記念撮影

えこまな@京田辺(同志社大学)

藤井 紀帆さん (生命医科学部 2年) 西田 晃大さん (理工学部 1年) 久富 佑紀乃さん (文化情報学部 2年)

えこまな@京田辺は同志社大学、同志社女子大学の学生からなる環境教育活動チームです。今まで同志社大学がある京田辺市の市民の環境保全意識を向上させることを目標に市立小学校で環境授業を行ったり、京田辺市役所と共同でごみ拾いをスポーツ感覚で楽しむイベント「スポゴミ」を共同企画、運営をしたり、地元の子供たちを対象に自然観察イベントを開催したりといった活動をしてきました。今年度は、京田辺でないほかの地域でも使えるような教材、授業モデルの作成を目標に活動します。今までの重きを置いていた「地域密着型の教育」から「全国で使える汎用性の高い教材」を完成させ、より多くの子供たちに環境に興味を持ってもらうことを目指します。

SDGs宣言

私たちのSDGs宣言は、「未来の大人たちに自然の大切さを伝える」です。私たちは環境教育をメインの活動として実施しており、私たち自身が直接環境活動を実施するよりは、未来の大人となる今の子供たちに対して自然の楽しさをわかりやすく、楽しく伝えることにより興味を持ってもらい、その子供たちが大人になったときにまたその時の子供に自然の大切さを伝えるといったような循環が生まれるといいと考えました。そうすれば自然を大切にするというマインドが後々の社会にも続き、いい世界になるのではないかと思います。



経短ごみゼロプロジェクト(京都経済短期大学)

北川 美紅さん (経営情報学部 1年) 南畑 成吾さん (経営情報学部 2年) 新谷 愛さん (経営情報学部 2年) 下田 京佳さん (経営情報学部 1年) 矢崎 森梧さん (経営情報学部 2年) 白石 羽衣歌さん (経営情報学部 2年)

私たちは、容器包装ゴミや食品ロスなど、いかにごみを減らすかを活動の目的としています。具体的には、リユース食器の導入を、地元の自治会主催の夏祭りなどにすすめて実践したり、なぜ食べ残しが発生するかなどを研究しています。

SDGs宣言

私たちは二つの宣言を考えました。一つ目の「活動認知」は、私たちが日ごろ実施しているリユース食器は、自分たちがやるだけで終わっているということを今日の研修で感じました。リユース食器を使うことでどう環境に貢献できるかを、食器を使っている人たちに伝えたいと思うので、活動認知をしっかりと行いたいと思います。二つ目がそれを踏まえた「意識改革」で、分別の呼びかけをすることもSDGsの視点に立つととても大切なことなので、ごみ分別の活動だけでなく、食器を使う周囲の人たちに対する普及啓発にも力を入れて、使う人たちの意識を変えることが大切だと感じました。



地域密着型サークル「にしき恋」(神戸大学)

田口 友理香さん (国際人間科学部 2年) 永柳 遥菜さん (農学部 2年)

私たちは人口減少、少子高齢化が進む丹波篠山市西紀南地区で、農家さんのお手伝いを中心に活動している神戸大学のサークルです。地域密着をモットーに、地域活性化、地域の課題解決に向けて学生自らが地域を巻き込んで様々な活動をしています。西紀南に若い活力を届けるために、今年で8年目となる農業ボランティアと、毎年メンバーそれぞれの興味や知識を活かした新しい取り組みに多数挑戦しています。

SDGs宣言

私たちは今まであまり「環境」のことについて考える機会がありませんでしたが、今日のプログラムを通じて環境の大切さを実感しました。自身の活動がどのようにSDGsに貢献できているかを改めて考えたところ、今の活動においても多数のゴールに関連していることに気づきました。私たちがどのように環境に貢献できるかを考えたところ、活動拠点や活動時における省エネ・節電節水や、食料廃棄をゼロにするなど、まだ取り組んでいないゴールから、それらのヒントを得ることができました。また、近くにホテルが生息するようきれいな川もありますが、その川をつかった活動をしていなかったことにも気づきました。本日の研修で得られたこれらの新しい視点から、さらに活動を発展させたいと思います。



環境ISO学生委員会(三重大学)

香川 知美さん (生物資源学部 2年) 川上 苑華さん (生物資源学部 1年) 渡邊 侘奈さん (生物資源学部 1年)

当委員会は、学内ではごみ減量化活動や家具・家電製品の再利用、放置自転車の再利用といった3R活動や、学内施設の屋上緑化や緑のカーテンづくりなどの緑化活動に取り組んでおります。また、学外では海岸清掃や小学校での環境学習の開催、三重県内の環境イベントへの参加等を行っております。今後も、大学組織や地域の方々と連携しながら、「世界に誇れる環境先進大学」を目指して積極的な環境活動を行ってまいります。

SDGs宣言

私たちのSDGs宣言は、「ごみ分別の徹底」です。環境学習や学内での環境の理解を促進させるような活動は今も実施していますが、他の団体の話を聞くと、ごみの分別の意識がそこまで高くないことを実感しました。また、子供への教育だけでなく、親の世代への周知も大切であるという話も挙がり、子供だけでなく親の世代やそのさらに親の世代もごみの分別に協力してもらえようという活動を進めたいと思いました。



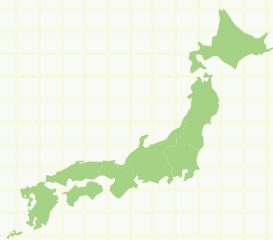
開催決定! 第5回 全国ユース環境活動発表大会

みなさんが日頃から実践している環境活動、
ぜひ発表してください!

くわしくは
P2~6で

地方大会 今年も全国8か所で地方大会を開催し、発表・交流・表彰を行います。

北海道大会(札幌) 11/10(日)
関東大会(東京) 12/15(日)
近畿大会(大阪) 12/15(日)
四国大会(高松) 12/22(日)



東北大会(仙台) 11/17(日)
中部大会(名古屋) 12/8(日)
中国大会(広島) 11/17(日)
九州・沖縄大会(福岡) 12/8(日)

全国大会 2020年2月8日(土)~9日(日) 東京都内で開催!

- 主催** 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)
- 後援** 読売新聞東京本社
- 協賛** キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、
SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ



事務局より

今年も「全国ユース環境活動発表大会」を開催します!
高校生の皆さん、ご応募お待ちしております!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



この環境マガジンは、「全国ユース環境ネットワーク事務局」より、全国約5,000高校、約100大学サークル、及び全国で環境活動をしているユースの方々と、その関係者の皆様にお送りしています。ユース世代の環境活動に関する情報やご意見等、ぜひ事務局までお寄せください! ユース世代のネットワークを広げましょう!



全国ユース環境ネットワーク事務局

環境再生保全機構からのお知らせ 地球環境基金はNPO・NGOの環境保全活動を支援しています

読み終わった本で環境保全活動に貢献しませんか?



「本de寄付」は本の買取金額が寄付金となり、NPO・NGOの環境保全活動に役立てられます。

SNSでユース事業のほか、助成団体の活動、地球環境基金のイベント、講座、研修のご案内等を発信しています!

フォローお願いします!

Instagram

twitter



①読み終わった本を段ボール箱へ

<送れるもの>
書籍・コミック・CD・DVD・ゲームソフトなど

②「本de寄付」に申し込む

ホームページ、TEL、FAXからお申し込み下さい。

③送料無料でお引き取り

ご指定の日時に配送業者が無料で集荷に伺います。

④買取金額が寄付される

ご寄付額を記載したお礼状を送付します。

<申し込み先>

TEL 044-520-9606 FAX 044-520-2192

「本de寄付」 検索